

# 多文化共生社会の構築を 目指した活動

愛知産業大学短期大学准教授

一般社団法人かにえ子ども日本語の会代表理事

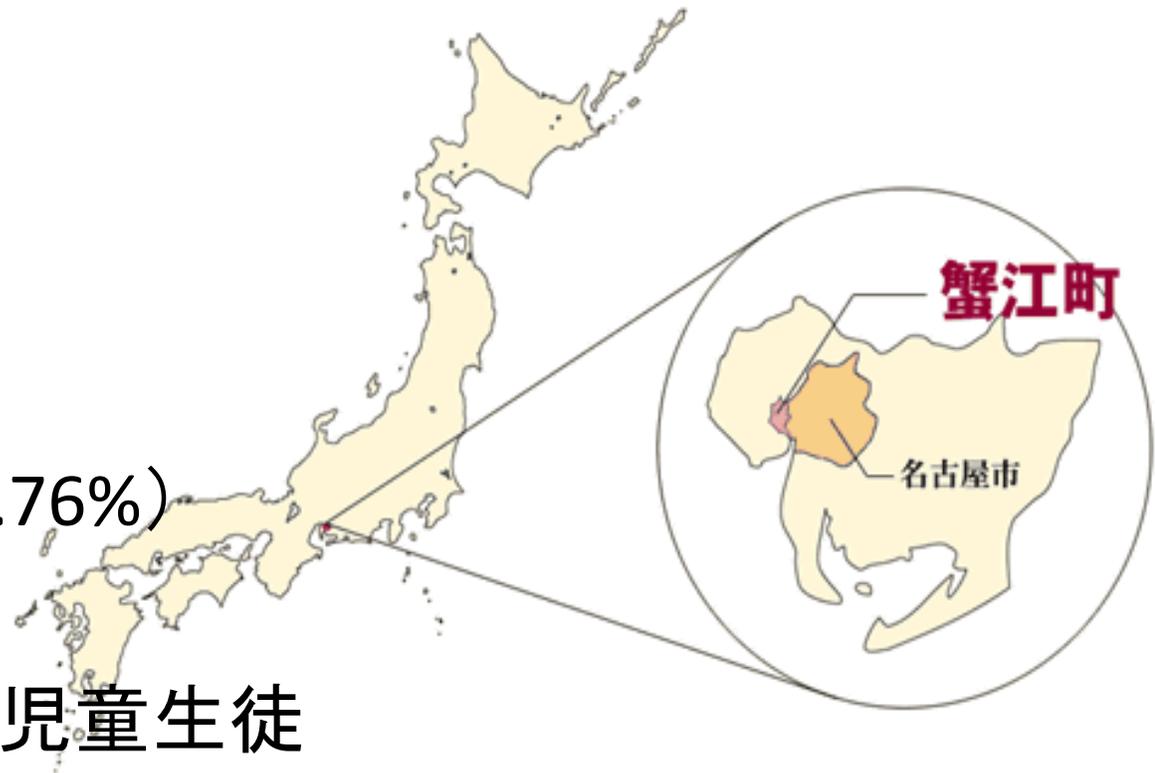
川崎直子

*First Round.....*

# 多文化共生社会の構築を目指して

- 2018年6月の外国人登録者数は264万人
- 永住者・定住者は年々増加の傾向
- 日本は多文化共生社会に向かって突き進んでいます
- 多文化共生社会の実現には、日本人住民と外国人住民のどちらか一方が主導するのではなく、協働して構築していくものです
- お互いの違いを知ること、違いが何なのかお互い学ぶこと、そして、違いを認めることが必要になるでしょう
- そんな思いで、日々活動を行っています

# 活動地域について



## ・愛知県海部郡蟹江町

総人口37,132人、外国人住民1,398人(3.76%)

➡ 愛知県54市町村のうち第13位※

## ・5小学校、3中学校 ➡ 約90人の外国人児童生徒

➡ ブラジル、フィリピン、中国、ベトナム、タイ

## ・両親とも／どちらかが外国籍(日本人の配偶者)

## ・保護者は派遣社員として工場労働等「デカセギ」

➡ 1990年以降に来日した「ニューカマー」

※愛知県内の市町村に外国人住民数の状況(平成29年12月末現在)  
愛知県県民文化部社会活動推進課多文化共生推進室  
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/gaikokuzinjuminsu-h29-12.html>

蟹江町ホームページ「町のプロフィール」より引用  
<http://www.town.kanie.aichi.jp/soshiki/2/chou-gaiyou.html>  
地図使用許可取得済み

# 会設立の経緯



- 2005年 外国人児童生徒の日本語教育を行うボランティア団体設立
- 2005年 小中学校での日本語指導と教科指導開始
- 2008年 保育所でプレスクール（年長児の就学前教育）開始
- 2010年 保育所でプレ・プレスクール（年中児の就学前教育）開始
- 2015年 法人格取得、一般社団法人

# 通常の事業と単発の事業と二本柱で活動

・通常の事業とは、行政から委託事業化されて毎日行う事業

- ①「支援者が小中学校に出向いて行う日本語指導と教科指導」
- ②「保育所でのプレスクール（年長児の就学前教育）」
- ③「保育所でのプレ・プレスクール（年中児の就学前教育）」

・単発の事業とは、その都度助成金に応募して、採択されたら行う事業

（過去2年間のイベント）

- ①2016年 5月 「イスラム圏出身の子どもの支援についての勉強会」
- ②2016年 7月 「防災セミナー」
- ③2017年11月 「DST(Digital Storytelling)」

# 通常の仕事

- 通常の仕事とは、行政から委託化されて毎日行う仕事

# 通常の事業

## ①2005年～ 小中学校での日本語指導・教科指導

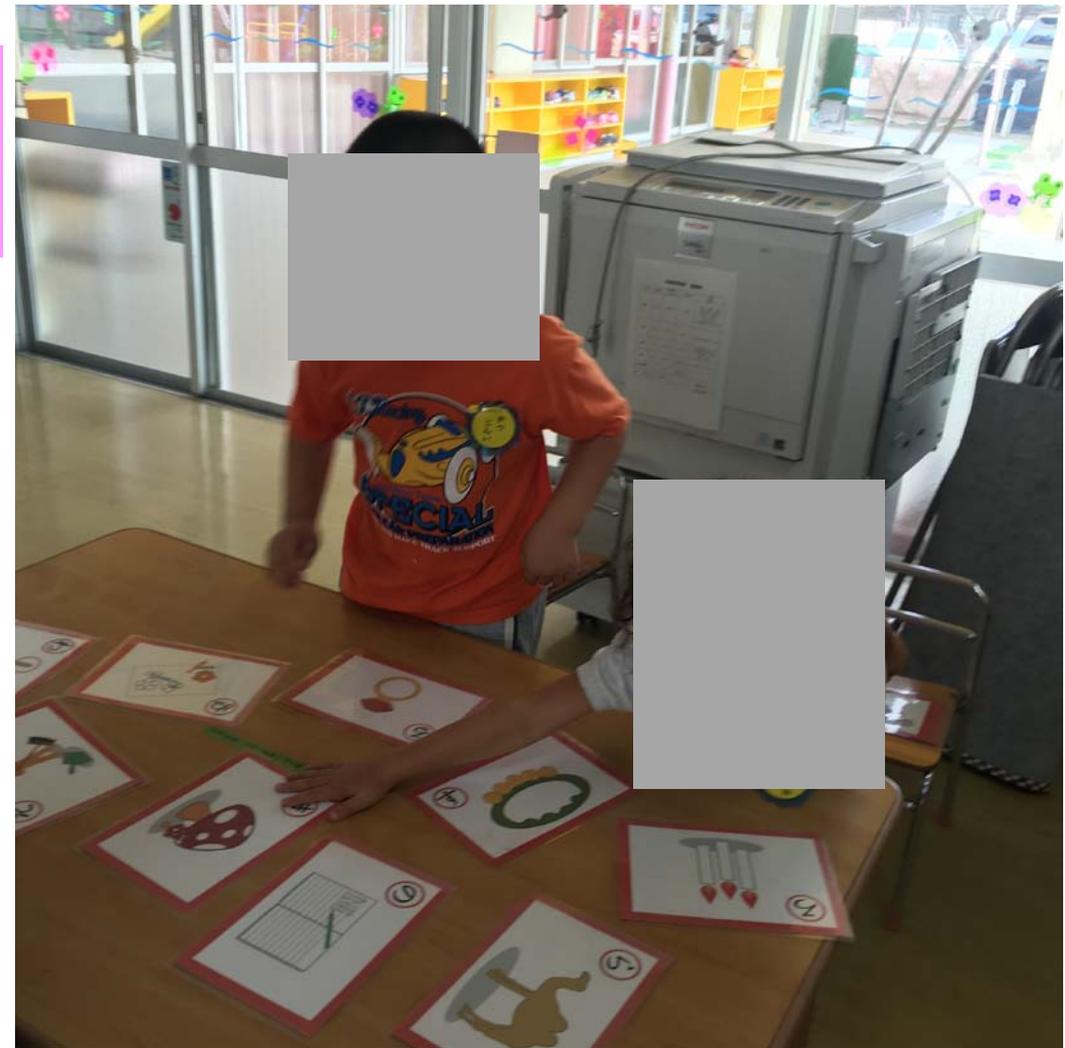


# 通常の事業

## ①2008年～ 保育所でのプレスクール(就学前教育)



子どもの発達に合わせたオリジナル教材の開発





2010年～  
保育所所長からの要望を受けて年中児の  
「プレ・プレスクール」の開始

# プレスクール最終週末に「小学校入学説明会」

各国語の通訳、行政の担当者、入学予定の小学校の教務主任なども参加



# プレスクール指導者養成講座



期間：平成 28 年 9 月 12 日 (月) ~ 12 月 19 日 (月)

9/12, 9/26, 10/3, 10/17, 11/14, 11/21, 11/28, 12/5, 12/12, 12/19

時間：午後 1 時 ~ 3 時

場所：蟹江町役場 3 階会議室

保育所・小学校・中学校に通う外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導・教科指導・進路指導・保護者の支援を行う指導者の養成講座を開講します。



募集人数

20 名 (申し込み先着順)

募集対象

町内在住の 60 歳以下の方

講座概要

蟹江町では、ブラジル、フィリピン、中国、韓国、ペルー、アフガニスタンなど様々な国にルーツを持つ子どもたちが、保育所のプレスクール、小中学校の日本語学級で日本語指導を受けています。「かにえ子ども日本語の会」は、2005 年から外国の子どもたちの日本語指導をしてきましたが、近年ますます増加傾向の子どもに対応するため、全 10 回の指導者養成講座を開講することになりました。

今まで日本語指導をしたことがないという方も、外国語が話せないという方も大丈夫です。外国にルーツを持つ子どもたちのことをいっしょに学んでみませんか。10 回全て受講された方には修了証が授与されます。また、講座修了後指導希望者は「かにえ子ども日本語の会」に登録して、各保育所・小中学校の要請に応じて指導を行います (開始時期未定)。

※受講料は無料ですが、初回のみ資料代・教材費として 2,000 円必要です。

応募方法

別紙の「受講申込書」を持参、FAX またはメールでご提出ください。

子育て推進課児童福祉係 FAX : 0567-95-9188 / メール : kosodate@town.kanie.lg.jp

申込締切

平成 28 年 8 月 31 日 (水)

お問い合わせ : 子育て推進課児童福祉係 加藤雄太 (0567-95-1111 内線 158)

一般社団法人かにえ子ども日本語の会 川崎直子 (kaniekodomo@gmail.com)

主催 蟹江町「プレスクール指導者養成事業」(まち・ひと・しごと創生事業)  
実施主体 一般社団法人かにえ子ども日本語の会

# 2015年度から指導者養成講座開講

支援者不足を補うため、子ども課主催

2015年度 4人 ➡ 全員支援者

2016年度 19人 ➡ 夏休み教室の支援

2017年度 11人 ➡ 開講中



# 夏休み宿題教室

## 夏休みの宿題の一部

- ・『日誌』(毎日のワークブック)
- ・読書感想文
- ・標語入りポスター
- ・図画
- ・理科の自由研究
- ・家庭科作品作り
- ・工作
- ・習字...

『日誌』に、「難しいところは手伝って」とあるが、日本語力が高くなく、日本の夏休みの宿題を経験したことのない外国出身の保護者にとっては、難しいタスク

手付かずのまま日にちばかり過ぎていき、新学期に何も提出できない

そこで、  
2016年度 モリコロ基金  
2017年度 モデル事業  
2018年度 教育課の委託事業化へ



# 宿題教室

# 夏休み

なつやす

しゅくだいいきよひじつ

一般社団法人かにい子ども日本語の会



## 夏休み宿題教室を開きます



- |        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 1. 対象  | 蟹江町内の小中学校で日本語指導を受けている子ども          |
| 2. 内容  | 「夏休みの宿題（ワークブック）」、工作、読書感想文など       |
| 3. 日時  | 7月22日～8月26日、火・金曜日、全10回、午前10時～12時半 |
| 4. 場所  | 蟹江町中央公民館                          |
| 5. 費用  | 無料 / 8月27日の親子書道教室は参加費一人500円       |
| 6. その他 | 学区外の子どもには送り迎えをします / お昼に軽食を準備します   |

### ポルトガル語—Sala de aula de lições de verão

1. Voltado as crianças que estão tendo aula de japonês nas escolas primárias e ginásias da cidade de Kanie.
2. Realizarão as lições das férias de verão (Work Book), trabalho escolar, leitura de livros, redação e etc.
3. A partir do dia 22 de julho até 26 de agosto nas terças e sextas-feiras, no total 10 vezes, das 10:00 até 12:30.
4. O local será no Centro Comunitário Central de Kaniecho (Kaniecho Chuo Kouminkan)
5. Não haverá taxa. / Somente no dia 27 de agosto haverá uma aula de calligrafia japonesa para pais e filhos, esta aula terá uma taxa de 500 ienes por pessoa caso participe.
6. Crianças que moram fora do distrito escolar poderão solicitar transporte. / Prepararemos um lanche para o almoço.

### フィリピン語—May ibubukas na Klase para sa Summer Vacation Homework.

1. Mga Taong Maaaring Dumalo : Mga batang nag-aaral ng Japanese Classes na pumasok sa elementary/junior high school na nasa Kanie'cho.
2. Mga Nilalaman ng mga Gagawin : (Mga Homework ng Summer Vacation (Book Work), Workshop, Book Report atbp.)
3. Araw at Oras : Martes at Byernes ng June 22 hanggang August 26 (Total 10 klase), 10:00 am hanggang 12:30 pm
4. Lugar : Kanie Chuo Koumin'kan
5. Bayad : Libre/ Ngunit sa klase ng August 8 na "Oryako Shodou (Kyoushitsu)" (Klase ng Calligraphy na maaaring dumadalo karama ang magulang) ay may bayad na 500 yen kada isang tao.
6. ATBP : May hatid at mundo ang mga batang nananaminirahan sa lugar na hindi sangkop ng distrito ng paaralan ng Kanie'cho/ May ihahanda na snacks.

### 中国語—举办暑假作业辅导教室

1. 对象 在蟹江町内上中、小学并且正在上日语辅导班的儿童
2. 内容 「暑假作业（练习册）」、手工、读后感作文等等
3. 日期 7月22日～8月26日、周二和周五、共10次、上午10点～12点半
4. 地点 蟹江町中央公民馆
5. 费用 免费 / 8月27日亲子书法教室一人要交500円
6. 其他 学区外的儿童可以接送 / 中午有简单的午饭

### 韓国語—여름방학숙제교실을열립니다

1. 대상 가니에 동내 내 초·중학교에서 일본어지도부를 받고 있는 학생.
2. 내용 「여름방학 숙제(워크북)」, 공작 활동, 독서감상문 등
3. 일시 7월 22일～8월 26일, 화·금요일, 전 10회, 오전 10시～12시반
4. 장소 가니에초 중앙공민관
5. 비용 무료/8월 27일 부모와 자녀가 함께 하는 서예교실은 참가비 1인당 500원
6. 기타 통학구역 외의 학생은 송영합니다. 점심은 간식을 준비합니다.

主催 一般社団法人かにい子ども日本語の会  
 助成 公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金  
 後援 蟹江町・蟹江町教育委員会  
 協力 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋、愛知産業大学

子どもの参加には保護者の承認が必要のため、事前に四ヶ国語に翻訳したお知らせを配布



- ・学年ごと／標語入りポスター、習字、理科の自由研究、工作などの大物宿題によってグループ分け



- ・2016年度は支援者が少なくて苦慮
- ・2017年度はSNSで協力を呼びかける



・小学生は学区外に一人で出歩いてはいけないため、送迎のレンタカー、運転手の手配

・早朝勤務・深夜勤務の保護者に送迎を期待することは不可能

・子どもから参加費500円徴収

・レンタカーを2台借りることは、予算的にひじょうに厳しい

・支援者の自家用車で送迎 → 安全性の問題が浮上

・夏休みは給食がなくなるため、食生活が不規則になる

・2016年度から軽食を用意

・2017年度 地域の篤志家からカレーライスやハヤシライスの寄付



・5校の小学校、2校の中学校から子どもたちが延べ150人参加

・他の学校の子とも仲良くなる

・出校日に宿題を提出できたことが自信になる

・各学校の先生方から、外国の子はこれまで夏休みの宿題は出さないのが普通だったが、提出できたことは嬉しいとのコメント



### 外国人小中学生 宿題教室楽しく

蟹江

蟹江町内の外国人の小中学生を対象にした夏休みの宿題教室が十四日、同町の蟹江中央公民館であり、約四十人の子どもたちがボランティアアらに教わりながら宿題を進めた。

外国人の家庭では夏休み中に宿題が出されている事情をよく知らない場合があ

2018年夏異常な暑さ  
暑さ対策を万全に



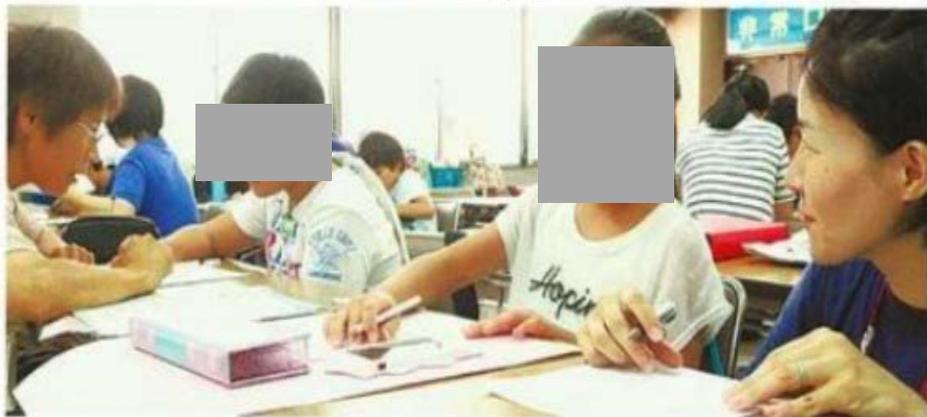
り、一般社団法人「かにえ子ども日本語の会」(同町)が二〇一六年から開講。本年度からは町教委の委託を受けている。

この日は全五回のうちの四回目。水やサラダ油に漬けたドライフラワーの変化を観察する理科の実験や、「日誌」と呼ばれる問題集などに取り組んだ。

母親がフィリピン人の新蟹江小学校六年、倉岡みづ



きさん(こは「友達と会って楽しく勉強ができ、うれしい」と話していた。  
最終回は二十一日午前十時から正午まで、同所で開かれる。五百円。見学だけの場合は無料。



友達と一緒に宿題を進める子どもたち。蟹江町の蟹江中央公民館で

# 単発の事業

- 単発の事業とは、その都度助成金に応募して、採択されたら行う事業
- 経済的基盤が盤石ではない当団体は、各種助成金に応募して資金獲得の目途が立った時点で実施する

# 近年増加の傾向を見せる イスラム圏出身の子どもの生活習慣、 学校文化などに関する勉強会



# 「やさしい日本語」による防災セミナー

- 災害時に情報弱者となる外国人
- 住民全員の何ヶ国語かの言語に即座に翻訳して伝達することは時間的、コストの面でも不可能
- 外国人に必要な情報を伝えるため
  - ➡ 日本人が自分の日本語を調整するため、「やさしい日本語」を学ぶ
- 「高台に避難してください」➡「たかいところに にげてください」
- 「常備薬は何ですか」➡「いつも のんでいる くすりは なんですか」
- 「近鉄線は運転見合わせです」➡「きんてつでんしゃは きません」



# 「やさしい日本語」と手話は作り方の構造が同じ





# 防災

## セミナー

平成28年  
 日時: 7月10日(日)  
 午前9時半~12時半  
 場所: 蟹江町希望の丘広場

### セミナーの主旨

気象庁は、4月に発生した熊本地震に引き続き、近い将来起こると考えられている大規模な「南海トラフ地震」を想定して備えようとして提案しています。そこで、今回の防災セミナーでは、外国人や耳が不自由な人に、住民はどのように必要な情報を伝達するのか、「やさしい日本語」と手話を体験します。そして、防災に関する複数の団体の活動を巡り、災害に備えるとはどういうことなのか、また災害時に自分たちがどんな行動を取れば良いのか、日本人、外国人、大人、子ども、皆さんで考えたいと思います。

### セミナーの内容

- ①「やさしい日本語」と手話を学ぼう
- ②避難袋を準備しよう
- ③災害時に活躍する新聞紙のスリッパを作ってみよう
- ④希望の丘広場の防災施設について知ろう
- ⑤非常食ってどんなもの？試食してみよう  
 (イスラム教対応食も準備します)

### お申し込み

お名前、年齢、所属、国籍、電話番号、メールアドレス、イスラム教対応食(要・不要)を明記のうえ、メール、FAX、電話でお申し込みください。

メール: kaniekodom@gmail.com ※申し込み締め切り: 7月1日(金)  
 FAX: 0567-95-3981(本附・きづき)  
 TEL: 0567-95-3981(本附) / 080-3652-3259(本附) / 0567-95-5770(中山)

### 対象

日本人と外国人の  
 大人と子ども

定員50人

参加費  
 無料

### ★アクセス



主催: 一般社団法人かにえ子ども日本語の会  
 助成: 公益財団法人和国証券福祉財団「平成27年度(第22回)ボランティア活動助成」  
 後援: 蟹江町、蟹江町教育委員会、中日新聞、蟹江町社会福祉協議会、愛知産業大学  
 協賛: 株式会社光和、認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋、社会福祉法人名古屋ライトハウス港ワークキャンパス  
 協力: かにえ防災減災の会、蟹江町赤十字奉仕団、蟹江平話サークル、かにえボランティアサークル、Humanity First Japan

デザイン: 愛知産業大学デザイン学科 近藤由衣

# 災害時の日本語やさしく

## 尾張版



盆栽  
 田島久美子  
 彩美会所属

ニュース、情報は下記へ  
 社会部  
 052-231-1650・5919  
 Eメール  
 shakai@chunichi.co.jp

一宮総局 平491-0851  
 一宮市大江1-13-13  
 0586-72-4545 Fax72-5035  
 津島通信局  
 0567-28-2157 Fax28-2158  
 稲沢通信局  
 0587-32-8800 Fax23-8035  
 江南通信局  
 0587-54-4001 Fax54-9622  
 蟹江通信局  
 0567-95-3022 Fax95-3000  
 春日井支局  
 0568-81-2036 Fax81-2797  
 犬山通信局  
 0568-61-2612 Fax61-2613  
 小牧通信局  
 0568-72-1177 Fax72-6530

中日新聞へのご意見は  
 読者センターへ  
 052-221-0800 Fax221-0819  
 Eメール  
 center@chunichi.co.jp  
 掲載写真を購入希望の方は  
 最寄りの中日新聞販売店へ



やさしい日本語を参加者に解説する川崎さん(蟹江町)

蟹江町の一般社団法人「かにえ子ども日本語の会」は在住外国人向けに、災害時によく使われる日本語を平易な表現に言い換えた「やさしい日本語」の普及活動を始めた。四月の熊本地震でも、外国人の住民や旅行者らに情報がうまく伝わらず、避難の遅れや避難所で孤立するケースが起きたからだ。

「高台に避難して、問題なくできるのに、ださ。どういう意味、読み仮名を振っても首が分かりますか」

「十日に蟹江町内であり参加者もいた。それだったセミナー。同会ので今度は「高い所に逃川崎直子代表理事が集めてください」と言い、またた外国人ら八十人、換えると、全員が納得に語り掛けると、大半、してうなずいた。は日本語で日常会話が「災害時に使われる

## 蟹江の団体 外国人向けに言い換え促進

言葉は、普段なじみがない特殊な言葉が多い。日常会話ができていても駄目なんです」と川崎さん。今紹介されたやさしい日本語は、阪神大震災を機に生まれた。

阪神大震災では多くの外国人も被災。ある調査では、百人当たりの負傷者は日本人の〇・八九に対し、外国人は二・二と二倍以上上だった。こうした実態から、弘前大の佐藤和之教授らが研究を始めたという。

外国人が日常で使うレベルの平易な表現に言い換えるやさしい日本語は、日本で一年間暮らすと習得できる語彙およそ二千語に絞っている。

蟹江町でのセミナーでも「食料配給」は「食べ物配る」に、「余震」を「後から来る地震」に言い換えた。町内では二・二と二倍以上は人口のおよそ3%に当たる千人の外国人が暮らしている。川崎さんは避難情報だけでなく、避難後の伝達にもやさしい日本語は有効だとい、災害が起これば、全員が被災者で助け合わなくてはならないのだから」と話

### ■やさしい日本語への言い換えの例

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| 安否確認      | → 大丈夫かどうか調べる      |
| 生き埋め      | → 壊れた建物の下にいて動けない人 |
| 迂回(うかい)する | → 違う道を行く          |
| 運転見合わせ    | → (電車は) 来ない       |
| 交通機関      | → 電車、バス、車など       |
| 重体        | → 命が危ない           |
| 津波        | → 高い波             |
| 停電する      | → 電気を使うことができない    |
| デマ        | → うそ話             |
| 避難所       | → 逃げる場所           |

※弘前大文学部社会言語学研究室のホームページから抜粋

# 「できますゼッケン」(避難所で活躍できること)を一人ずつ作成



外国人は要支援者ではなく、避難所で支援者としても活躍できるように

2歳の男の子はゼッケンに「あんぱんまんのうたがうたえます」と書いていました

# 50人分の五目ご飯を調理

「できますゼッケン・りょうり」の人が配膳します



# イスラム圏出身の住民に対する配慮も必要



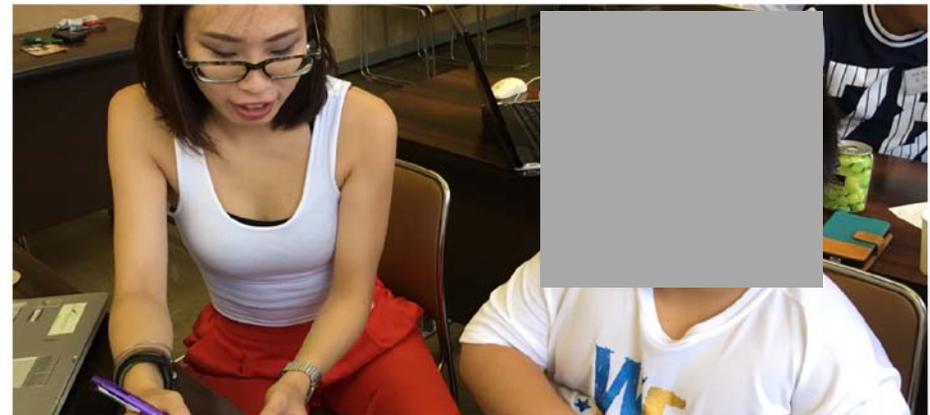
ハラール認証を受けた  
長期保存可能なパン



イスラム圏の住民も食べられる  
「豆カレー」を教えてくださいました

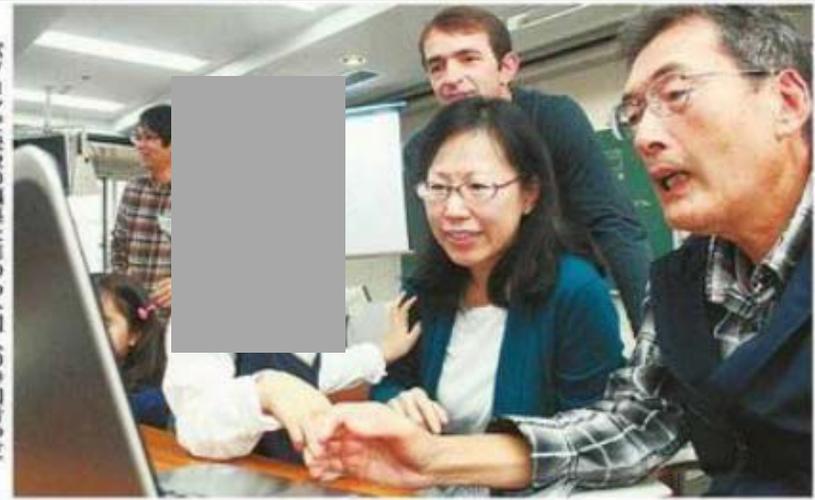
# 地域住民との交流を目指して—DST (Digital Storytelling)

外国人が「自分の国」「家族」「日本」など、好きなテーマを選んで、自分のナレーションと写真・動画を組み合わせた作品を日本人支援者の協力を得て作り上げます



蟹江町の外国人たちが、自身の生い立ちなどをナレーション入りの映像で紹介するデジタルストーリーテリング(DST)の上映会が十一月十一日、同町城の産業文化会館で開かれる。外国人に日本語を教える一般社団法人「かにえ子ども日本語の会」(蟹江町)が初めて企画。制作の過程で外国人が日本語を学ぶとともに、地元の人たちに自らを知ってもらうきっかけにする。

(大野雄一郎)



パソコンで映像の編集を進める外国人の参加者や支援ボランティアら。いずれも蟹江町の中央公民館で

# 自己紹介動画 外国人ら制作



レコーダーに日本語を吹き込んだ。ナレーションで吹き込む緒方さん(左)と娘のシュウナちゃん

## 蟹江で11日上映

「私は緒方ロレーナで、子どもたちがタガです。十八年前に日本にきました」

同町の蟹江中央公民館で二十一日、フィリピン出身のパート緒方ロレーナさん(左)が上場会に向け、息子の風

河君(左)、娘のシュウナちゃん(右)と一緒にICレコーダーに音声

DSTで上映するの

は、フィリピンでの生活や来日してからの様子などの写真データをパソコンでつなぎ合わせ

して編集した三十分のスライドショー。フ

人が協力し、参加者が母国語で書いてきたナレーション原稿を日本語に翻訳。川崎直子代表理事は「原稿に何が書いてあるかを(外国人が)スタッフに日本語で説明するところから、日本語の習得が始まっている」と話す。

日本で生まれ育った外国人の子どもが、親のルーツの言語や文化に触れる機会をつくる狙いもある。女性スタッフの一人は「お父さん、お母さんの母国語も忘れないでほしい」という思いがある」と説明する。川崎さんは

「来日の経緯から紹介できるのが、より交流が深まるはず。当日が

上映会は午前十一時から午後二時まで。視聴希望者は四日までに

同会に申し込む。上映後は交流パーティーも予定している。問い合わせや申し込みは、同

会のメール(Kanick@odono@gmail.com)へ。

ボランティア(二十)人。





外国人の紹介動画を見た感想などを発表する参加者ら＝蟹江町城の産業文化会館で

# 外国人が自己紹介動画

## 自身で制作、蟹江で上映会

蟹江町の外国人が自ら制作した紹介動画を見せる「デジタルストーリーテリング(DST)」の上映会が十一日、同町城の産業文化会館であった。町民

ら七十人が鑑賞に訪れ、外国人のルーツを知って理解を深めた。外国人に日本語を教えている同町の一般社団法人「かにえ子ども日本語の会」の主催。同

会などから日本語を教わっているブラジルやフィリピン出身の七組が、母国での暮らした様子や日本で撮った家族写真などのスライドショー形式の五分前後の動画を上映した。ミャンマー出身で十七年前に来日した同町今西のパート上山まりさん(左)もは動画で、ミャンマーで挙げた結婚式の写真や、来日後に民族衣装や料理といった自国の文化を小学校などで紹介している様子を披露。動画は八月から制作し、日本語で吹き込んだナレーションも流れた。観覧者と外国人がグループになって感想や意見を話し合う場も設

けられ、「母国のことを持ちよった交流パーティーも蟹江のことも大事にしていることが伝わってきた」などの声も聞かれた。来場者が料理

近な外国人と協力し合おうという気持ちになってもらえれば」と話していた。(大野雄一郎)

# DST 上映会・交流パーティ

2017年11月11日(土)

午前10時～午後1時

産業文化会館(資料代500円)

※温めなくても、冷やさなくてもいい食べ物または、お菓子を一品お持ちください

DSTとはDigital Story Tellingのことです。

外国にルーツを持つ大人と子どもが、

「母国の思い出」「私の生き立ち」「家族の話」など、

テーマに沿って写真とナレーション映像を作りました。

みなさま、DSTの上映会と交流パーティにぜひご参加ください。



主催：一般社団法人かにえ子ども日本語の会

後援：蟹江町・蟹江町教育委員会 中日新聞

助成：一般財団法人東海テレビ国際基金

### 参加申し込み書

|        |  |    |  |
|--------|--|----|--|
| お名前    |  | 年齢 |  |
| 電話番号   |  |    |  |
| E-mail |  |    |  |

# 作品の上映会を地域住民とともに 上映後に意見交換、そして交流パーティ



# 多文化共生社会の構築を目指して

- 日々の活動の中から課題を見つけ出していくことが重要
- その課題を解決することは、誰のためなのか、今しなくてはいけないことなのかをよく考えることも必要です
- それは本当に、日本人住民と外国人住民との共生に必要なことなのかを話し合います
- 課題の解決の道のりには私たちの団体だけで可能なのか、行政、他の外国人団体、他の団体との協働で実施するのか、ネットワークが大切になってきます
- 多文化共生社会の実現には、全員参加が不可欠

ご清聴ありがとうございました